竹林整備と竹資源の活用

一般社団法人 ふるさと創成の会（NPO 法人 がんばりよるよ星野村）

日本の伝統工芸を支えた星野村の「皮白竹」

かつて、八女市星野村に生息する真竹は、有明海の海苔網用のポールとして出荷されていました。
また、星野村の真竹は、鹿児島県などに広く供給されていた竹の中でも、節が高くしなりにも強いことから、重宝されていました。
この真竹の中に、突然変異である、全国的にも星野村・矢部村・うきは市にしか生息しない「皮白竹」（かしろだけ）があります。皮白竹のタケノコが伸びる時に落ちる竹皮は斑点がなく、白く綺麗で繊維が強い為、版画に使うバレンや群馬県の南部草履、京都のコッポリや茶道具の羽箒など、工芸品の材料として重宝され全国に供給するほどで、星野村の竹産業は林業に次ぐ二大産業でした。特に、日本の浮世絵の版画摺り用のバレンでも、本バレンと言われるものは、この皮白竹の竹皮がないと制作できない希少なものです。

しかし、日本全国に大きな被害を与えた1991年の台風19号により、星野村の竹産業も大きな打撃を受けました。有明海には強風で倒れた海苔網の竹が散乱し、海苔業に大きな被害を与えたことから、以来、有明海の海苔網用のポールは、グラスファイバー製への変更が進み、星野村の竹産業は急激に縮小され、放置されるタケヤネ（星野村では竹林の事をタケヤネと言う）が増えていきました。
孟宗竹であれば、筍産業としての需要はありますが、真竹にはその需要はありません。
放棄竹林は猪の格好の住処となり、畑や田圃に及ぼす獣害の元にもなります。
枯れて荒れ放題の竹林はタケノコも生えなくなり、防災面でも景観面でも整備が必要です。

そこで、私達 NPO法人 がんばりよるよ星野村は、この放棄竹林問題解決の為に、2017年から竹林整備活動を始めました。群馬県竹皮編みの伝統工芸士 前島美江氏をお招きして、竹皮編みのワークショップを開催するなど、竹の歴史と現状を学びながら竹林整備を続けています。

NPO 法人 がんばりよるよ星野村（一般社団法人 ふるさと創成の会 会員）
〒834-0201　福岡県八女市星野村10951
0943-24-8353　ganbahoshino@dune.ocn.ne.jp　https://www.facebook.com/hoshinosien/